

トムラウシ南沼のトイレ問題解決に向けて

原澤 翔太（環境省上士幌自然保護官事務所）

トムラウシ南沼野営指定地（以下、南沼）は“大雪の奥座敷”と呼ばれるトムラウシ山の山頂直下、大雪山国立公園の特別保護地区に位置している。野営地周辺にはチングルマやエゾコザクラ等の見事なお花畑が一面に広がり、その景観の美しさは日本随一と言っても決して過言ではない。道内外からやってくる多くの登山者に、至福の一時を与える場所だ。しかしながら、野営地外の岩陰や茂みに目を移すと、その景観は一変する。登山者のし尿やティッシュがあちこちに残置され、ひどい臭気を放っている。また、トイレのためにお花畑が踏まれ、踏まれたところでは植生が消失し、植生が消失したところでは土壌流出が進んでいる。一般登山者は知ることのない、南沼の裏の顔である。

「日本一美しくて、汚い野営地だ…」自然保護官に着任して初めて南沼を訪れ、お花畑の中で大量のし尿とティッシュを回収したときの衝撃は、忘れることのできないものだ。



岩陰に散乱するし尿と“ティッシュの花”



精神的にもズシリと重い、回収成果（H28.7）

南沼のトイレ対策としては、北海道が平成14年から携帯トイレブースを1基設置しており、平成12年～16年には宿泊施設や山岳ガイド等への携帯トイレの無料配布も行われた。しかし、その後、行政による効果的な対策は行われず、また、対策方針について考える場も設けられなかった。その結果として、南沼のトイレ問題は進展が見られていない状況であった。

「現状を打破するためにとりあえず何かしないと」そんな想いのもと、平成28年、山の日の制定に合わせて、環境省上士幌自然保護官事務所、北海道十勝総合振興局、林野庁十勝西部森林管理署東大雪支署、新得山岳会、山のトイレを考える会が協力して、まずは登山口で携帯トイレ持参の呼びかけを実施。そしてこれを契機に、官民協働で携帯トイレによるトイレ問題の解決を目指す“トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト”の立ち上げに向けた調整を、上士幌自然保護官事務所と十勝総合振興局が共同で開始した。プロジェクトへの協力の呼びかけには、山のトイレを考える会をはじめ各団体とも快く応じていただき、

この場をお借りして感謝申し上げたい。

※ 取組の詳細については十勝総合振興局の寄稿文を参照。



登山口での普及啓発活動 (H28. 8)



汚名返上プロジェクトの準備会議 (H29. 1)

さて、平成 29 年度からスタートを切ることになった“トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト”だが、問題解決までの道のりは長く険しい。携帯トイレは購入、使用、持ち帰り、入山前から下山後まで、登山者負担を求めるシステムであり、「登山者が負担するのはおかしい」「行政が固定トイレを整備するべきだ」という声も多々あると思われる。私自身も一登山者としては、やはり固定トイレがあった方が助かると思う。

しかし固定トイレの整備と維持管理は現在の予算事情では難しく、そして何より“カムイミンタラ -神々の遊ぶ庭”と称される大雪山の原生的で雄大な雰囲気損なわないためにも、南沼では、登山者自身も山を守る者の一人として協力し、携帯トイレで回していく体制を目指すべきではないかと思うのである。プロジェクトでは、購入から持ち帰りまでをできるだけストレスなく行えるようにするための取組を官・民・そして登山者自身とともに考え、実践し、徐々に登山者の理解を得られるよう働きかけていく。

「トムラウシ山がいつまでも美しい山であるように」これだけは、行政も山岳団体もガイドも登山者も、みんなが同じ想いでいるはずである。

何年後になるかはわからないが、想いを結集し、いつの日か“ティッシュの花”が咲かない南沼となることを目指して、根気強く取組を続けていきたい。



南沼に広がる美しいお花畑